

大学生におけるデート DV に関する認識

岡山大学医学部保健学科，岡山大学大学院保健学研究科*

塩田萌，小寺菜見子，大田有貴子，中塚幹也*

[目的]

近年，ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害が報道される機会が多くなっている．内閣府の調査報告でも被害経験は女性の 33.2%，男性の 17.7%であり，相談件数も増加傾向であるとされる．また，婚姻関係にない若年層の男女における暴力である「デート DV」の被害も増加していることが知られている．しかし，若年者の中にはデート DV の認識が低い可能性，また，殴る蹴るといった身体的な暴力のみを DV と考えている可能性あるため，自覚のないまま DV 被害者あるいは加害者となっていることも考えられる．今回，大学生におけるデート DV の実態とその背景を調査したので報告する．

[方法]

医学部・歯学部の大学生 336 名に対して，同意のもと無記名の自己記入式質問紙調査を施行した．調査用紙は，各自が封筒に厳封し，回収箱に投函する形で回収した．回収率は 75.9% (255 / 336 名) であった．内訳は女子 205 名，男子 47 名であった．尚，本研究は岡山大学大学院保健学研究科倫理審査委員会の承認を得て施行した．

[成績]

デート DV の認知度に関しては，「知らない」10.3%，「言葉だけ知っている」16.1%，「内容を少し知っている」57.0%，「内容をよく知っている」16.5%であった．また男女間で比較してみると，「知らない」，「言葉だけ知っている」との回答は，女子の 21.4%に比較して，男子では 47.8%であり有意に高率であった ($p < 0.0006$)．また，交際経験のある群，性交経験のある群ではデート DV の内容を，「少し知っている」あるいは「よく知っている」との回答が有意に高率であった．

デート DV に含まれる項目の認知度について，「首を絞める」など身体的暴力に関する項目に関しては 90%以上がデート DV と認識していたが，「他の友人との付き合いを嫉妬したり，制限したりする」など，束縛に関する項目に関して，デート DV と認識している学生は半数以下であった．男女間で比較すると，「相手を見下したり，脅したりする」は女子では 87.4%がデート DV と認識していたが，男子で

は 70.2%と低率であり、どの項目も男子の方が認知度は比較的低かった。

デート DV の被害経験に関して聞いたところ、全体では 36.3%であり、女子は 38.6%、男子は 25.5%であった。内容としては束縛に関する項目が高率であった。

デート DV の加害経験に関しては、全体では 25.2%、女子は 26.1%、男子は 21.3%であった。内容はやはり束縛に関する項目が高率であった。

自尊感情尺度 (Rosenberg, 1965) を用いて、被害経験、加害経験と自尊感情との関係を見たところ、被害経験も加害経験もない群の 32.2 ± 6.1 「20~49」点と比較して、被害経験のみ群、被害および加害経験あり群では差が見られなかったが、加害経験のみ群では 35.0 ± 6.0 「25~47」点と有意に高得点であった。

[考察]

デート DV を「知らない」、「言葉だけ知っている」、知っていても「内容を少しだけ」と答える学生が大部分であったが、交際経験や性交経験のある群の方が、ない群に比較して、デート DV を知っているとの回答が高率であった。実際に交際する中で、様々な経験があり関心を持ったり、実際にデート DV の被害者、加害者になったりするためであると推測された。

デート DV である各項目のうち、身体的暴力に関する項目は、デート DV と認識されていたが、束縛に関する項目の認知度は低かった。このため、実際に起こっているデート DV の被害経験、加害経験ともに、束縛に関する項目が高率であった。デート DV に関して、言葉としてはマスコミなどを通じて知っているものの、その内容に踏み込んだ詳細な教育は行われていないことが予測される。とくに、男性では関心も低く、自覚のないまま加害者となっている場合も考えられる。

デート DV の被害経験、加害経験と自尊感情との関係に関しては、加害経験のみある群では自尊感情が高く、これが、「パートナーを束縛する」、「見下す」などの行動と関連している可能性がある。

今回の結果から、大学生においても、デート DV の詳細に関する認知度は低く、啓発が必要であると考えられた。特に、身体的な暴力に発展しなくても、パートナーを束縛するなどの行動の予防には、それを DV であると認識知ることが重要であり、男女間のコミュニケーション、男女同様なつきあい方などの感覚を身につけていく小学生、中学生などの早い年代での教育が必要であろう。

[文献]

1) 男女共同参画局。女性に対する暴力の根絶。

http://www.gender.go.jp/main_contents/category/boryoku.html